

インタビュー型 職場体験とは

- 【特徴】**
- ①世代を越えたコミュニケーションを体験する機会、②学校の学習と職業との関係について考える機会を踏まえた職場体験が必要。一定の作業のほかに、複数の社員へのインタビューの機会を設定することが望ましい。
 - 生徒にとっては、企業や仕事への興味が増し、満足度や学習効果が高まり、社員にとっては、自分の仕事の振り返りや想いを再確認する機会になる。
 - 1日目にインタビューのルールを生徒に伝え、1日1人以上のインタビューができると、生徒の企業や仕事、社員への理解が深まる。

受け入れの際の心得
マネージャー

生徒と職場体験に関わる社員を先導し、
取りまとめる役割を担うことで**管理能力**が向上

受け入れる人数やスケジュールに合わせてチーム(2名〜)を編成すると良いでしょう。マネージャーという立場で、**チームメンバーに参加生徒との交流を促す**ことで、生徒とチームメンバー双方の成長=「共育」につなげることができます。
また、**社員の協力を仰ぎ、受入計画やチームの目標を立て、受け入れ当日や振り返りまでの全体運営など、チームを先導することに専念**することで、一スタッフからマネージャーへと意識の変化が現れることも期待できます。

【受け入れ担当になったら】

関わり方のポイント①

「メリハリのあるコミュニケーション」

つきっきりで丁寧に教えるのではなく、作業を伝え、その作業を見守り、作業後に担当者が感想を伝えることが大切。生徒には自ら考え、答えを導き出す力が育ち、社員には仕事の振り返り、新たな視点の追加にもつながります。

- ◆良い時は褒め、悪い時は、注意するなど、上司が部下に接するような指導を
- ◆社会的マナーや礼儀の大切さを教える
- ◆職業や働くことの大切さを話す
- ◆自分の生き方や学習の大切さなどを話す

関わり方のポイント②

「ねらいを見失わない」

中学校は、それぞれ独自の教育目標を定めています。企業は依頼があった際に、担当する教員に、①教育目標、②学校・生徒の実態、③地域性などをヒアリングしてください。学校の目的やねらいにすべて応えることは非常に難しいですが、意識した受け入れを心がけることは、学校にとっても非常にありがたいものです。

関わり方のポイント③

「アウトプットを全員で共有」

職場体験受け入れに関わった社員と振り返りを行ない、文書にして、次の職場体験の担当者に引き継ぎを行うと良いでしょう。はじめからすべてうまくいくことはありません。受け入れの改善を行うことで携わる社員の意識も上がり、企業への帰属意識も上がると考えられます。

流れを知ろう 基本のプログラム

文部科学省は、5日間の職場体験を奨励しています。5日間職場に通うことで、働くことがどういうことなのかを学んでもらいたいからです。ただ、現状は授業時間の確保や受け入れる企業の確保などの理由で、1〜3日間で行うものが多いようです。ここでは5日間を基本に、生徒の心理の変化と、それに合わせた企業の対応方法についてご紹介します。

感動の5日間	生徒の状態	担当者の対応	インタビュー内容(生徒から社員へ)
1日目	【緊張の1日目】 ・学校と家庭以外の場所に行くことは、大人が想像する以上に緊張する	・生徒の緊張がほぐれるような工夫と配慮が必要	・休憩時間に「中学時代の過ごし方」など身近な話題について
2日目	【仕事を覚える2日目】 ・緊張のあまり初日の説明を十分に理解できていない場合がある	・作業の理解と自信を促す ・出来たことは褒める	・作業の振り返りを通じて、「仕事内容」など
3日目	【仕事に慣れる3日目】 ・職場に慣れてきて、次第にコミュニケーションが取れるようになってくる ・反面、中だるみもある	・仕事の背景を説明するなど、仕事そのものの理解を促す ・悪ふざけ等が見られる場合は理由を説明し注意	・「仕事に就いた理由」 ・「仕事のやりがい」 ・「仕事の考え方」など
4日目	【創意工夫の4日目】 ・作業にも慣れ、少し余裕が見えてくる ・短期間でも、生徒の成長が見えるかも	・仕事の大変さを感じてもらうために生徒自身に、作業や仕事について考えさせる機会を提供 ・時間的制限を設け、作業効率を考えさせる	・「仕事をする上で大切にしていること」 ・「尊敬する人」 ・「印象に残っている言葉(座右の銘)」 ・「勉強が仕事でどのように活かしているか」など
5日目	【感動の5日目】 ・皆勤できたことは、それだけで生徒にとって大きな達成感となる	・振り返りを社内で発表 ・5日間の成果や頑張りを評価し褒める	・「将来どんな大人になりたいか」を社員より生徒にインタビュー

職場体験が2日間の場合

日数が短いと、仕事を覚えて終了してしまう可能性があります。インタビューなどを効果的に盛り込むことで、感動の最終日を迎えることができます。

日数の長短にかかわらず、生徒にとって自分の親以外の大人に触れ、日々どんな思いで働いているのかを間近に感じることは貴重な経験です。それがひいては地域の理解や愛着、誇りにつながっていきます。

インタビュー内容は社員が自由に設定しても、生徒と一緒に考えても構いません。

受け入れる以外の方法も

企業(社員)が学校へ出向いて授業を行う 出前講座

1限(50分)程度の授業を企業が学校で実施する出前講座という取り組みがあります。ある眼鏡メーカーでは、「光とレンズ」に関する理科の授業を行っています。凸レンズ、凹レンズの仕組みを理解することをねらいとし、近視や遠視のメカニズムを「だまし絵」などを使って説明します。実生活に役立っている様々なレンズを紹介することで、さらに興味・関心を促しています。その他に、複数部署の社員5名程度が集まってチームを組み、地域の学校で「働く」をテーマに複数回授業を行う方法もあります。「CSR=社会貢献」で学校教育を支援するとともに、社員自ら授業プログラムの「企画→実施→振り返り」を行い、社員研修として取り入れるものです。社会で働く大人と出会う機会の少ない生徒にとって、企業で働く社員が学校に来て授業を行うことは、とても大きな刺激になります。

CSR・地域貢献活動の一環として!

教える側の大人(企業)にとってモチベーションやスキルアップ!

